



九州大学所蔵

Material and Specimens deposited in Kyushu University

標本・資料



九州大学総合研究博物館は、自然史・文化史など多くの分野を総合した博物館です。そうした博物館の活動領域を象徴するように、見る方向によって様々な形に見えるような形態を考えました。蝶の羽根、巻貝の横断面、蔓植物の先端(唐草)、木の幹に止まった昆虫、額に刺青を施した人物の顔にも見えるはずです。上下逆転させれば、不死鳥フェニックス、あるいは未知の世界に漕ぎ出す船にもなるのです。

九州大学総合研究博物館ロゴマーク制作者 岩永省三



九州大学所蔵標本・資料

Material and Specimens deposited in Kyushu University

I

動物

I-1.	農学研究院動物昆虫学講座動物分野所蔵標本 (両生類、爬虫類、鳥類、ほ乳類の剥製および液浸標本)	2
I-2.	英彦山動物標本 (福岡県添田町にある英彦山実験所周辺で得られた動物の液浸および剥製標本)	3
I-3.	動物骨格標本 (組み立てられた骨格標本が多く、希少動物の骨格標本を含む)	3
I-4.	魚類標本 (朝鮮半島産魚類の生活史液浸標本やインドー太平洋の外洋域の稚仔魚液浸標本)	3
I-5.	木船コレクション (翼手類および食虫類の寄生虫の標本)	4
I-6.	宮崎コレクション (肺吸虫などの吸虫類寄生虫の標本)	4
I-7.	寄生虫標本 (線虫、吸虫、条虫よりなる寄生虫の標本)	4

II

昆虫

II-1.	ELKUタイプ標本 (昆虫類・クモ類の完模式標本)	6
II-2.	カメムシ目標本 (日本を代表するカメムシ目昆虫の標本)	6
II-3.	内田コレクション (鳥類に寄生するハジラミ類の標本)	6
II-4.	甲虫目標本 (ハムシ、カミキリムシ、ハネカクシ類などの日本産甲虫類標本)	6
II-5.	中條コレクション (アジア各地の甲虫類昆虫標本)	7
II-6.	世界のクワガタムシ科標本 (全種数の3/4に相当するクワガタムシ科甲虫約500種の標本)	7
II-7.	世界のコガネムシ上科標本 (クロツヤムシ科、コガネムシ科などの昆虫標本)	7
II-8.	佐々治コレクション (テントウムシなどのヒラタムシ上科甲虫を中心とする昆虫標本)	7
II-9.	ゾウムシ類標本 (アジア・太平洋地域で採取されたゾウムシ類昆虫標本)	8
II-10.	宮川コレクション (日本産ゾウムシ類昆虫の標本)	8
II-11.	チョウ目(チョウ・ガ類)標本 (日本に分布する大多数のチョウ・ガの標本がそろった昆虫標本)	8
II-12.	アジア産チョウ類標本 (日本を代表するチョウ類昆虫標本)	9
II-13.	杉谷コレクション (朝鮮半島北部の標本を多数含む世界各地の美しいチョウ、ガの昆虫標本)	9
II-14.	ハエ目標本 (日本に分布する大多数の種を含む日本産ハエ類昆虫標本)	9
II-15.	タマバエ科標本 (日本産タマバエ類昆虫の国内最大の標本)	9
II-16.	徳永コレクション (カの仲間であるユスリカ類昆虫の標本)	10
II-17.	北山コレクション (アミカ科およびアミカモドキ科昆虫の標本)	10

「九州大学所蔵標本・資料」の発刊に寄せて

九州大学総合研究博物館長 村江達士

九州大学総合研究博物館は、平成12年4月に創設され、現在では、内部的な組織固めをほぼ修了し、今後は、従来からの活動をより一層充実させるとともに、大学内外に於ける博物館活動範囲のさらなる拡充を検討する段階に至っております。長い歴史を持つ大学の多くは、文科省が認める博物館相当施設を大学自身が保有しています。これらの大学博物館は、その前身となる施設の有無や、設立の経緯は異なっていますが、設立の趣旨は共通していて、学内に蓄積された膨大な数の貴重な学術標本・資料を一元的に管理し、社会に広く公開し、今後の研究に役立たせることです。

九州大学のように、歴史が長くかつ規模が大きな大学では、これまでに膨大な数の貴重な学術標本・資料が蓄積され、また、新たな研究の進展とともに、現在もその数は増え続けています。九州大学の学術標本・資料はこれまでに行われてきた研究結果を保証する物的証拠であるとともに、今後の新たな研究を展開するための材料でもあります。しかしながら、このように膨大な標本・資料を各部局、各研究室で個々に保存・管理することは、現在では、スペース的にも困難な状況にあり、また、研究室の研究テーマの変化により忘れ去られようとする標本・資料も多くあります。長い歴史を積み重ねることで蓄積された標本・資料は一度失われると二度と取り戻すことは出来ません。現在、このような冊子を作成することにより、あらためて九州大学が所有する学術標本・資料を見直しておくことは非常に重要なことだと思われま

九州大学総合研究博物館を創設するに当たって行われた調査では、九州大学には博物館に保存してほしい標本・資料が750万点存在するとの結果が出ています。今回出版しますこの冊子は、前回の調査が単なる数量として表現していた部分に、具体的な資料の内容を付加する方式で編集されました。これらの編集に当たっては、博物館の資料部に兼任教員として全学から参加して頂いている多くの方々にご協力を頂きました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

九州大学総合研究博物館は、新キャンパスへの移転とも関連して、未だに独自の建物を保有しておりません。博物館のスタッフ一同、新しい博物館の建物が建設され、この冊子に掲載された標本・資料が適正な環境で管理できる日が一日も早く到来することを日々願っております。

目次

Contents

10	虫こぶ標本 (おもにタマバエ類が植物に形成する虫こぶの標本)	II-18.
10	アジア産ハエ類標本 (日本を代表するハエ類昆虫標本)	II-19.
10	アジア・太平洋地域産ヤドリバエ科標本 (ヤドリバエ科ハエ類昆虫標本)	II-20.
11	ハチ目標本 (アジア・太平洋地域で採集されたハチ類昆虫標本)	II-21.
11	立川コレクション (カイガラムシ類に寄生するハチ類(トビコバチ科)の標本)	II-22.
11	天敵昆虫標本 (寄生性ハチ類の昆虫標本)	II-23.
11	アリ類標本 (日本および世界のアリ類昆虫標本)	II-24.
12	ミクロネシア産昆虫標本 (ミクロネシアに分布する甲虫、チョウ・ガ、ハチ、ハエ、カメムシなどの標本)	II-25.
12	パプア・ニューギニア産昆虫標本 (パプア・ニューギニアでの学術調査により採集された昆虫標本)	II-26.
12	ネパール産昆虫標本 (ネパールで採集された昆虫標本)	II-27.
12	韓国産昆虫標本 (日韓合同調査で採取された昆虫標本)	II-28.
12	英彦山昆虫標本 (福岡県添田町にある英彦山実験所周辺で採取された昆虫標本)	II-29.
13	水田昆虫標本 (アジア各地の水田地帯で採集された昆虫標本)	II-30.
13	昆虫標本(その他) (農学研究所蔵の主要分類群のコレクションを除くその他の昆虫標本)	II-31.
16	中島コレクション (福岡県産種子・シダ植物標本)	III- 1.
16	福岡県植物研究会コレクション (福岡を中心とした九州一円の植物標本)	III- 2.
16	竹内・纈纈(たけのうち・こうけつ)コレクション (九州における種子およびシダ植物および玄海町沖の島産植物)	III- 3.
16	初島コレクション (朝鮮半島、樺太、台湾および九州地方の植物標本)	III- 4.
17	矢原コレクション (東南アジア産植物、メキシコ産および日本産キク科植物標本)	III- 5.
17	金平コレクション (ミクロネシア産およびニューギニア産植物標本)	III- 6.
17	栽培学講座イネ科コレクション (オーストラリア、インド、パキスタンのイネ科植物標本)	III- 7.
18	瀬川コレクションおよび海藻類さく葉標本 (保育社の原色海藻図鑑に使用された標本の大半を含む日本産海藻類のさく葉標本)	III- 8.
18	生薬標本 (生薬および薬用植物のさく葉標本)	III- 9.

昆
虫

III

植
物
・
海
藻
・
生
薬

IV

化石

IV- 1.	鳥山隆三フズリナ化石コレクション (秋吉台およびタイ・マレーシア産石炭-二畳系フズリナ化石薄片標本)	20
IV- 2.	勘米良亀齢フズリナ化石コレクション (日本産石炭-二畳系フズリナ化石薄片標本)	20
IV- 3.	渡辺耕三フズリナ化石コレクション (日本産石炭-二畳系フズリナ化石薄片標本)	21
IV- 4.	秋吉石灰岩層群鳥山コレクション (山口県秋吉石灰岩層群から採集された古生代後期の化石を含む石灰岩標本)	21
IV- 5.	勘米良亀齢サンゴ化石コレクション (日本産石炭-三畳系サンゴ化石薄片標本)	21
IV- 6.	松本達郎コレクション (北海道の白亜系産アンモナイトとイノセラムスの化石標本)	22
IV- 7.	野田コレクション (白亜紀イノセラムス(軟体動物二枚貝綱)の化石標本)	22
IV- 8.	速水コレクション (中生代軟体動物化石標本)	22
IV- 9.	首藤コレクション (新生代軟体動物化石標本)	23
IV-10.	東南アジア産無脊椎動物化石 (中生代-古生代の頭足類と腕足類の化石標本)	23
IV-11.	南アメリカ産無脊椎動物化石 (古生代の頭足類と腕足類の化石標本)	23
IV-12.	理学研究所蔵化石および現生貝殻標本 (古生代-新生代の化石標本と現生の貝殻標本)	23
IV-13.	示準化石教材標本 (世界各地から集められた各地質時代の指標となる化石標本)	23
IV-14.	六本松化石標本 (古生代、中生代、新生代の保存状態が良好な化石標本)	24
IV-15.	松下・高橋・相原コレクション (国内外の炭田から採集された石炭並びにその周辺地層から産出した植物化石)	24

V

鉱物・岩石

V- 1.	高壯吉鉱物標本 (日本産を主とした大型結晶鉱物標本)	26
V- 2.	六本松鉱物標本 (約400種の鉱物からなり、小型ながら美晶を多く含む鉱物標本)	26
V- 3.	岡本要八郎鉱物標本 (福岡県と長崎県に産出した鉱物標本)	27
V- 4.	吉村豊文標本 (日本産マンガン鉱石標本)	27
V- 5.	白水鉱物標本 (層状珪酸塩鉱物、粘土鉱物を主とする鉱物標本)	27
V- 6.	青木鉱物標本 (現在採集取不可能な旧鉱山からの標本を含む、九州産を主とする鉱物標本)	27
V- 7.	島田鉱物標本 (南米ボリビアやチリ産鉱石、対馬産鉱石、九州北部花崗岩)	28
V- 8.	理学研究所蔵鉱物分野標本 (旧地質学教室鉱物講座の研究過程で採取された日本産鉱物標本)	28
V- 9.	理学研究所蔵希元素地球科学分野標本 (鹿児島県菱刈金山鉱石、西南日本金属・非金属鉱石)	28
V-10.	理学研究所蔵岩石標本 (九州の火山岩、深成岩、変成岩およびアフリカの深成岩、変成岩)	29
V-11.	岡田コレクション (世界の堆積岩標本)	29

